

平成 29 年度通常（第 1 回）理事会議事録

日 時： 平成 29 年 6 月 17 日（土） 14：30～16：00

場 所： 岸記念体育会館 1 階 スポーツマンクラブ

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、富田三和子、関一人、高間信行、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、平井昭光、森信和、大島茂樹、大西治夫、馬場益弘、中村和哉、井川史朗、黒川重男、宇都光伸

以上 25 名

出席監事：児玉萬平、上野保

以上 2 名

オブザーバー：芝田崇行環境委員長、大庭秀夫レース委員長、戸張房子国際委員長、山川雅之医事科学委員長、大坪明外洋安全委員長、大村雅一ルール副委員長・事務局長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 29 名中、出席者 25 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 29 年度通常（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、菊池邦仁、中村和哉の両理事が任命された。

河野会長から、重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

障がい者セーリング推進委員会からの推薦理事の高間信行氏から理事新任の挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 29 年度第 1 次補正予算（案）

斎藤常務理事から資料に基づき、平成 29 年度第 1 次補正予算案について説明があった。

平成 29 年度当初予算策定後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、第 1 次補正予算案を策定した。主な変更点は、①管理費・その他において、消費税納付額の増額が予想されるため、準備委員会からの繰入収入および租税公課を増額計

上した。平成 29 年 5 月支払消費税額は 6,160 千円でした。準備委員会繰入収入（消費税分）を 1,000 千円から 2,000 千円、租税公課支出を 5,000 千円から 6,000 千円とした。

②普及指導委員会において、国際的スポーツ人材養成委託事業は実施しないこととなり、収支ともに 0 円を計上した。また、日本財団助成金が決定したので、収支ともに補正計上した。「海と日本プロジェクト」事業に協力する形で、全国各地でセーリングスポーツの楽しさを味わってもらふ事業を実施する。日本財団助成金収入 30,000 千円を 20,000 千円、日本財団負担金収入 7,500 千円を 5,950 千円、日本財団助成事業支出 37,500 千円を 25,950 千円とした。

③国際委員会において、国際会議出席者の見込み等を実態に合わせて反映し、補正計上した。JOC 補助金収入 630 千円を 800 千円、事業費支出（旅費等合計）4,550 千円を 3,140 千円とした。

④オリンピック強化委員会において、JOC および JSC の交付決定額を反映して補正計上した。JOC 関係は前年比で減額となっている。事業収入合計 464,792 千円から 387,375 千円、事業支出合計 465,213 千円から 387,191 千円とした。以上の結果、総合計では、収入合計 655,247 千円、支出合計 653,850 千円、当期収支差額 2,397 千円となった。なお、当初予算の黒字計上額 1,212 千円と比較して増額となったが、これはオリ強委員会の赤字額の縮小によるところが大きく、一般事業収支としてはほぼ収支均衡の状態であることに変わりないとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) 理事及び監事候補推薦手続規則

鈴木専務理事から資料に基づき、理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂について説明があった。

改定の趣旨は、定款変更により委員会推薦及び女性理事候補者枠の増員を目的にして理事枠が 5 人増加したことに伴い、役員推薦の方法の改訂を行うものである。具体的改定内容は、①第 4 条（理事並びに監事候補者の推薦方法）1 項及び 3 項に委員会による推薦候補者の号の追加、全国加盟団体代表者会議の推薦候補者に「女性特別推薦候補者」を含むことの明記及びそれらに伴う語句の整理を行う。改定内容は、改選される理事推薦候補者については、理事会は、当連盟の活動の継続性及び円滑化を図るため、次の者の理事会に対する推薦者を、評議員会へ理事候補として推薦することを決議することができる。②第 5 条（役員候補者の推薦数）1 項（1）に、定款変更による理事定数の増加（上限 27 名→32 名）、およびそれに伴う全国加盟団体代表者会議の推薦候補者に「女性特別推薦候補者」数、委員会推薦人数ならびに会長推薦中の女性の推薦者数の下限の設定を行う。③第 6 条（役員候補者の推薦手続）3 項に委員会推薦についての文言追加を行う。改定内容は、役員候補者の各水域、会長ならびに委員会からの推薦や、全国加盟

団体代表者会議からの推薦投票を行うに当たっては、役員候補推薦管理委員会を設けて、これを行う。連盟事務局は、当該委員会の事務手続きを支援する。④第7条（全国加盟団体代表者会議による理事候補者の推薦手続き）（1）に「女性特別推薦候補者」について明確にするために、今までの選挙による推薦候補者を「一般推薦候補者」とするとともに、役員候補者推薦リスト掲載者を「立候補者」として、それぞれの内容および推薦手続きを定めるとの発言があった。

中澤理事から、全国加盟団体代表者会議での理事候補者で女性枠は別枠で進めるべきであるとの発言があった。

天辻理事から、全国加盟団体代表者会議での理事候補者で女性3名を確保する理解でいいかとの質問があった。

川北理事から、全国加盟団体代表者会議での理事候補者11名とし、一般枠と女性枠とを分けないシンプルな表現方法にするべきであるとの発言があった。

戸張委員長から、World Sailingではジェンダーという表現を使用し、男女どちらも30%以上という規則（女性が70%を超えたらNG）であるとの発言があった。

河野会長から、表現方法に懸念はあるが、女性枠は票数が少なくとも3名は特別枠と理解しているとの発言があった。

<報告事項>

1) 委員会監査

児玉監事から、平成28年度各委員会事業報告及び決算監査について報告があった。

各委員会の事業規模ならびに人員拡大に伴い、平成28年度委員会事業報告及び決算書類ならびに契約書関係について、監事3名で委員会別に詳細に監査した。今後は、詳細に関する質問について提示するので、各委員会と協議の上、今後の活動にフィードバックしていただきたいとの発言があった。

2) 総務委員会報告（女性活躍推進施策推進責任者の役員定年延長に関する件）

鈴木専務理事から資料に基づき、JSAFにおける女性活躍推進施策推進責任者の役員定年延長に関する件について説明があった。

平成29年5月27日理事会決議事項における女性活躍推進施策推進責任者の役員定年延長に関する件について、改めて内容を提示する。①当連盟においても政策・意思決定過程のあらゆる分野において女性の積極活用の推進を更に加速化することとした。②これに伴い、定款並びに理事及び監事候補推薦手続規則の一部を改訂したが、年齢要件は変更していない。③女性施策の実行責任者に中川副会長を選任するとともに、その役員定年については理事及び監事候補推薦手続規則に関わらず、特例的に2020東京オリンピック

ック・パラリンピック競技大会終了年度末まで延長することとすることを決議したとの発言があった。

中川副会長から、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、チャイルドルーム等のレディース委員会活動をサポートし、女性のレガシーを残せるように努力するとの御礼があった。

3) 障がい者セーリング推進委員会活動について

高間障がい者セーリング推進委員会副委員長から資料に基づき、障がい者セーリング推進委員会活動について報告があった。

前回 5 月理事会において、キールパラワールドの障がい者選手の参加応援について緊急動議が出され、2024 パラリンピックでの障害者セーリング種目復活活動の一環として、2017 パラワールドキール大会に 2.4OD（一人乗りキールボート）に個人的に参加する選手の寄付金募集の承認いただいた。JSAF ホームページ上に、障がい者セーリング強化プロジェクト（2017 年パラワールド・チャンピオンシップ<ドイツ キール>）に関わる寄付金の募集を掲載した。①募金総額 1,000 千円、②募集期間は平成 29 年 6 月 1 日～8 月 1 日、③募集対象は、障がい者セーリング国際大会への選手・指導者派遣強化事業とする、④募集理由は、継続的な強化事業の円滑な推進、⑤資金使途は、当該事業経費（事業内管理経費を含む）に充当する。2017 年パラワールド・チャンピオンシップ<ドイツ キール>には丹羽巧氏を派遣するとの発言があった。

4) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。

最近の国際大会の主な成績は、デルタロイド大会（5/23～27、オランダ・メデンプリック）で、レーザーラジアル級の土居愛実選手（アビームコンサルティング）が 1 位、SWC ファイナル（6/4～11、スペイン・サンタンデール）で、470 男子市野・長谷川組が 5 位であった。今後の予定は、7 月ギリシャで 470 ワールド、9 月江の島で RS:X ワールド、10 月蒲郡で SWC に参戦するとの発言があった。

5) JOC 委員の推薦について

鈴木専務理事から資料に基づき、JOC 委員の推薦について報告があった。

JOC 選手強化本部・総務委員会・日本ユニバシールド委員会の各委員の推薦について、選手強化本部に中村健次氏、総務委員会に鈴木修専務理事、日本ユニバシールド委員会中澤信夫理事を推薦する。なお、任期は 2 年（選任日から平成 31 年 6 月 JOC 定時評議員会まで）であるとの発言があった。

6) ワールドマスターズゲームズ 2017in オークランド大会報告

中村理事から資料に基づき、ワールドマスターズゲームズ 2017in オークランド大会報告があった。

ワールドマスターズゲームズ 2017 は、4 月 21～29 日、ニュージーランドの Torbay Sailing Club で、レーザー83 艇、レーザーラジアル 71 艇、Weta (シングル/ペア) 49 艇の合計 222 人で開催された。競技視察のポイントとして、大会全体レベル運営は全日本選手権レベルだが、ワールドとして必要なインターナショナルジュリーの組織が必要で PRO は IRO もしくは国際レースの経験のある方が望ましい。ただし、運営については World Sailing からの招聘はなく、NF も最小限の関与のみで、当該クラブ関係者で組織されていた。NF は実績のある Torbay Sailing Club に全面的に委託していた。競技レベルは、五輪経験者から地方選手権レベルまで幅広く、「競技を楽しむ」ために開催されていた。チャーター艇提供についてはレーザーが新艇であった。競技艇計測は、国体や全日本のレベルで行われていた。

競技運営関係は、ラバーボート 32 艇内、14 艇がレスキュー艇、本部船はセーリングクルーザー等も使用していた。世界選手権とはいえどもフリーエントリーということからイベント性も高く、競技レベルの差もあることから、レスキューボートがとても重要なことが考えられるとの発言があった。

7) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、平成 29 年度 IJ/IU 候補推薦委員会の構成について報告があった。

平成 29 年度 IJ/IU 候補推薦委員会の構成について、JSAF ルール委員会は、World Sailing の認定するインターナショナル・ジャッジ (IJ) ならびにインターナショナル・アンパイヤ (IU) の資格認定申請を行おうとする者について、IJ/IU 候補者推薦委員会を設置している。今期の委員構成は 8 名の推薦委員会委員を人選したとの発言があった。

8) 普及指導委員会活動報告

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会報告があった。

①日本財団「海と日本プロジェクト」は、昨年度に引き続き、日本財団から 2,000 万円の助成金を得て、6 月 24 日の香川県を皮切りに、10 月 4 日までの間、全国 13 か所で「海の日」普及イベントを開催予定である。②本年度、公認コーチの講習会は 27 名応募で、前期 11 月 10～12 日に東京、後期 1 月 6～8 日に仙台で開催予定である。また、公認指導員 (クラブ等の指導者レベル) の養成は、都道府県連が県体協と協力して開催するのを支援します。今年度は静岡県連と長崎県連で開催予定であるとの発言があった。

9) 外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループ報告があった。

「フラッグ・リレー」は、2017年から2020年の期間をかけて完遂する予定で、今年5月2日東京都小笠原村父島二見港をスタート、茨城県大洗マリーナを経て、大洗からいわきへフラッグが引き継がれた。6月4日には、いわき（2011年3月11日の東日本大震災で壊滅状態になり閉鎖されていた旧いわきサンマリーナ）で引継式が行われた。今後は東北・北海道を巡る予定であるとの発言があった。

菊池理事から、いわきの震災復興とオリンピックの成功を祈念して、いわき市長にもご臨席いただき、いわきサンマリーナでフラッグの引渡式を行ったとの発言があった。

相澤理事から、青函カップレースの開会式等セレモニーでフラッグ引渡式の準備を宮城外洋帆走協会と協議しているとの発言があった。

10) 平成29年度賛助会費・広告等入金状況

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成29年度賛助会費・広告等入金状況について報告があった。平成29年度賛助会費は610万円、広告協賛はオリ強605万、選手個人は100万の予算計上をしているとの発言があった。

11) 平成29年度メンバー登録数（5月31日現在）

大村事務局長から資料に基づき、JSAFメンバー登録数実績について報告があった。平成29年度メンバー登録5月31日現在で合計7,303名との発言があった。

12) 平成29年度臨時第1回理事会議事録案（5月31日）

大村事務局長から資料に基づき、平成29年度臨時第1回理事会議事録（案）について報告があった。

13) その他

①森理事から、セーリングワールドカップ（SWC）蒲郡大会の近況報告があった。SWC実行委員会で、レース運営ならびに大会運営組織をつくって、積極的に準備を進めている。今後は、具体的な課題に取り組むべくスタッフを集めているとの発言があった。

②桑原副会長から、準備委員会報告があった。セーリングワールドカップSWC蒲郡大会は、ヨットハーバー改修中であるが、大会に向けて目途が立ってきた。World Sailingからは集客を要望されていることから、大広を通じて地元イベントのセレモニーを進めているとの発言があった。

③黒川理事から、愛媛国体準備状況について報告があった。艇庫・スロープなどのハー

ド面、役員手配・レース委員のスキルなどのソフト面も準備は進んでいる。一番の懸案事項は風が安定するかとの発言があった。

- ④関アスリート委員長から、JOC アスリート代表会議について報告があった。各団体の活動状況については具体的に未定である。JOC アスリート委員会は女性が活躍している。World Sailing アスリートコミッションでは、種目変更の議論などに、投票権はあるが意見反映がされないとの発言があった。
- ⑤平松理事から、会員増強プロジェクト報告があった。学連、実業団、外洋などの各団体から委員を刷新して、会員に対して具体的サービスの提供を検討していきたいとの発言があった。
- ⑥井川理事から、ハンザワールド進捗状況報告があった。強化拠点も見据えて、ワールドに向けて大会の意義や地元協賛を検討しているとの発言があった。
- ⑥大村事務局長から、次回9月理事会は9月3日(日)に変更するとの報告があった。
- ⑦河野会長から、470 会議でリオオリンピックでの映像がなかったことについてアスリートとしての意見がなかったことは残念である。東京オリンピック費用負担問題等で組織委員会との見解相違について正しい事実経過の説明があった。ハンザワールド広島大会のチャーター艇は日本財団からの助成金を要望している。全国数カ所の活動拠点で設置することで推進していただきたいとの発言があった。

平成 29 年度通常 (第 1 回) 理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 29 年 6 月 17 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 菊 池 邦 仁

議事録署名人 理 事 中 村 和 哉

副 会 長 中 川 千 鶴 子

副 会 長 桑 原 啓 三

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 渉

常務理事 坂谷 定生

監 事 児玉 萬平

監 事 上野 保